

「令和5年度・四国遍路(世界遺産・日本遺産)

市町村担当者説明会」

－“土佐清水市教育委員会”の取り組みを報告－

6月26日(月)13時30分より高知城ホール(高知市)にて、標記の説明会が開催された。土佐清水市教育委員会事務局からは、生涯学習課長補佐・池内正樹、同課市史編さん室長・田村公利の2名が出席。担当者説明会では、高知県を代表して遍路道の保存活用に係る取り組みについて田村公利がこれを報告した。

報告では、(1)真念庵とは… (2)土佐清水市指定文化財となった真念庵 (3)四国四県統一デザイン看板の設置 (4)令和2年2月23日真念庵堂舎の落慶法要 (5)「高知家遍路道プロジェクト」の内容 (6)遍路道保存活用の取り組み、等々6点にわたり言及し、一つ一つ丁寧に報告させていただいた。



◎ 「6月4日の沖縄ジョン万次郎会総会での講演」が 「琉球新報」に掲載される!

6月4日(日)13時から総会が開催され、14時から約90分間にわたり市史編さん室・田村公利の「少年万次郎を育んだ中浜浦—土佐清水市史の視点から—」と題した講演が行われた。このとき琉球新報(喜屋武幸弘通信員)が取材に来ており、今回記事として総会と講演の様子が取り上げられた。

「他口でいえば、歯磨きが歯から、虫歯がなくても歯磨きの状態が良くない子どもたちが多い。歯を磨くことがうまくでき

「少年万次郎を育んだ中浜浦」
—土佐清水市の視点から—

豊見城、土佐清水市の田村さん

【豊見城】沖繩ジョン万次郎会（赤嶺光秀会長）は4日、豊見城市社会福祉センターで2023年度定期総会を開催した。総会終了後、一般公開のジョン万次郎勉強会（講演会）を開いた。

講師を務めた土佐清水市教育委員会生涯学習課市史編さん室長の田村公利さん(57)は「少年万次郎を育んだ中浜浦—土佐清水市の視点から」と題し、講演を行った。

万次郎は10歳の頃から中浜浦の老役今津家に奉公に出され、

14歳の時、米の脱穀の方法を巡って主人と言い争いになり、結果的に中浜浦を出て遠く離れた宇佐浦のカツオ船に乗って漁をするようになった。少年の頃から自立心が芽生えていて、そういう意志の強さによって無人島での生活を乗り越えることができたのでは—と分析した。

そして「琉球と土佐清水の縁では、琉球船の清水浦漂着に対して救助の手を差し伸べた歴史がある。万次郎が糸満大渡津に上陸した時、国外に追ひ払わなかったのは土佐清水への恩義を感じていたからだろう」と語った。（喜屋武幸弘通信員）

22～28日、午前11時～午後5時、沖繩市山内3—2—41比嘉康雄アトリエ。入場無料。

◆第9回比嘉康雄写真展「世を漕ぎ寄せるシチ（西表島）」



◎市史調査&執筆協力員・太子町教育委員会生涯学習課・木谷智史副主査から

①「論文抜き刷り」②「令和4年度橋本氏郷土資料館年報」③「News Letter ひびき」が市史編さん室に届く！

- ①は、『大阪大谷大学大学院 歴史文化学論叢第4号』（2023年3月）に掲載された「和歌山県橋本市阿弥陀寺所在の石造物群について」と題する木谷氏の論文。
- ②は、橋本市郷土資料館の令和2～3年度の月別入館者数のデータ表、「和歌山県橋本市利生護国寺の中世石造物群について」と題する木谷氏の論文。
- ③は、「福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館における以降の保存と展示のための取り組み」と題した藤井佐由里学芸員の研究メモ、「安楽寺・三十三度行者供養塔群」と題した木谷副主査のレポート。

